

はじめに

本調査は、当金庫のお取引先のご協力により昭和50年7月から実施しているものです。四半期毎に調査を行い、D. I. を中心として分析を行っています。

なお、当金庫では6種類の一般業種のほか、地域金融機関として地場産業に重点を置いた調査を行い、次の8業種を選定しております。

- ① 縫製業
- ② 電子部品・半導体製造業
- ③ 漆器業
- ④ 木材業
- ⑤ 建具業
- ⑥ 織布業
- ⑦ 繊維・雑品業
- ⑧ 観光業

今回の調査は、平成30年1月～3月期の業況実績と、平成30年4月～6月期の見通しについて、管内770先の事業所を対象に実施いたしました。

些かなりとも経営のお役に立ていただければ幸いです。

※D. I. (Diffusion Index) 拡張指数

不変部分を除いて増加（上昇）したとする企業と、減少（下降）したとする企業の全体に占める構成比のどちらの力が強いかを比べて、時系列的に景気のベクトルの傾向を見る方法です。

**** 目次 ****

1. 概況	1
2. 地区内の業況D. I. 推移	2
3. 一般業種の業況	
(1) 製造業	3
(2) 卸売業	4
(3) 小売業	5
(4) サービス業	6
(5) 建設業	7
(6) 不動産業	8
4. 地場産業の業況	
(1) 能登地区の縫製業	9
(2) 能登地区の電子部品 ・半導体製造業	10
(3) 能登地区の漆器業	11
(4) 能登地区の木材業	12
(5) 能登地区の建具業	13
(6) 能登地区の織布業	14
(7) 能登地区の繊維・雑品業	15
(8) 能登地区の観光業	16
5. 経済指標	17～18
6. 特別調査 経営者の健康管理と事業の継続について	19

(注) 平成30年1～3月を今期、平成29年10～12月を前期、平成30年4～6月を来期という、以下同じ。

調査対象企業の業種別先数および有効回答数

	依頼先	有効回答数	回答率 (%)	構成比 (%)
製造業	229	198	86.4	30.0
卸売業	36	31	86.1	4.7
小売業	230	193	83.9	29.3
サービス業	130	119	91.5	18.0
建設業	111	94	84.7	14.2
不動産業	34	25	73.5	3.8
合計	770	660	85.7	100.0

◇◆◇ 概 況 ◇◆◇

《 2018・1～3月》

今年2月の大雪は各方面に多大な影響を与え、状況は連日マスコミを通じて全国に伝わった。ここ数年の少ない降雪に慣れていた人たちにとって、本来の北陸の冬を思い出させることとなったが、特に、物流網の停滞で商品が届かないスーパーやコンビニでは品薄状態が続き、消費関連でも幅広い業種で相当のマイナス影響が出た。一方、2月の石川県における有効求人倍率が44年ぶりで全国2位の2.02倍となり、人手不足感も過去最高となった。

こうした中、当金庫営業地区の今期（平成30年1月～3月）業況D.I.は、△20.0（前期△11.1）と悪化を示した。

地区内全体では、建設・繊維関連機械、医薬品が引き続き好調であったものの、雪による影響で納品遅れが発生した製造業や、同様に工事の進捗状況に遅れが生じた建設業、物流網の停滞により低迷した卸売業や小売業では全体的に売り上げが大きく減少し、サービス業では入込人口の減少が響き、宿泊業・観光業はキャンセルが1割を超えるなど、大雪の影響からか不動産を除く全ての業種が悪化を示した。

地場産業では、電子部品・半導体製造業でスマートフォン向けが引き続き好調を維持しているが、中国での需要にやや落ち着きが見られるようになってきている。入込客が減少して売上が下がった漆器業や建築の遅れから納品が減少した建具業は悪化に転じた。住宅用木製品の需要が増加した建具業では大幅な改善を示している。引き続き衣料品向けが低調であった織布業は悪化したが、繊維・雑品業はわずかに改善し、入込客数の減少とキャンセルが影響した観光業は大きく悪化となった。

来期（平成30年4月～6月）の地区内における業況D.I.は、△11.4と改善を予想する。地区内全体では、不動産は悪化に転じるとするも残りすべての業種が改善すると予想しており、小売業や卸売業、サービス業などは売上げの大幅な増加を見込んでいる。

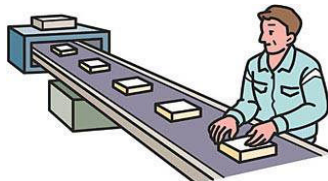
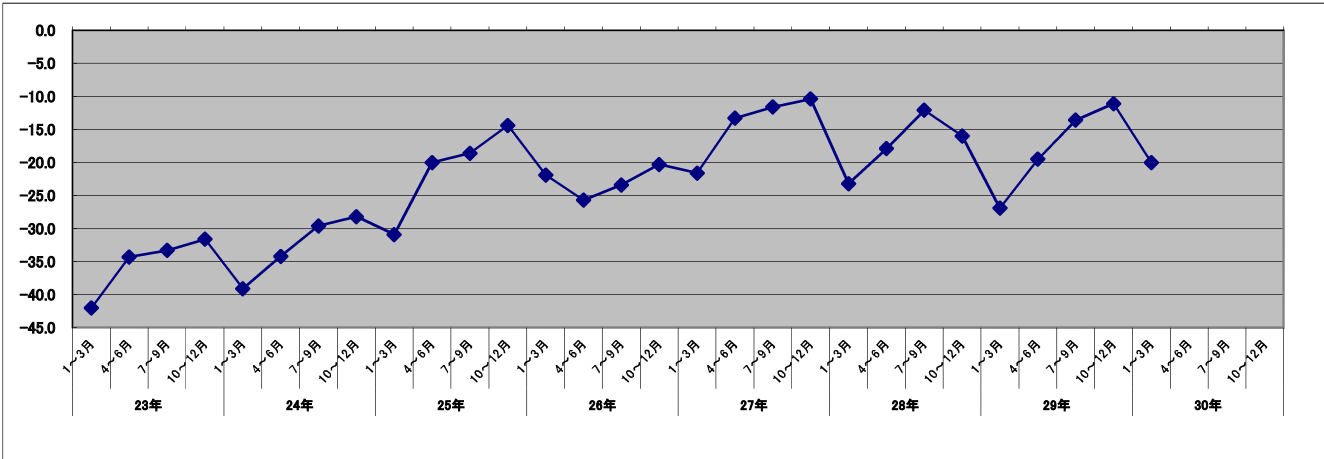
地場産業においては、縫製業、織布業や観光業は季節要因も加わって大きく改善すると予想するも、電子部品・半導体製造業、木材業、漆器業では横這いでの推移を予想しており、建具業、繊維・雑品業は悪化を見込む。

当地区においては、電子部品・半導体製造業および縫製業において、調査対象企業が後継者不足もあって年々減少しており、地場産業とは呼べないまでの状況になりつつある

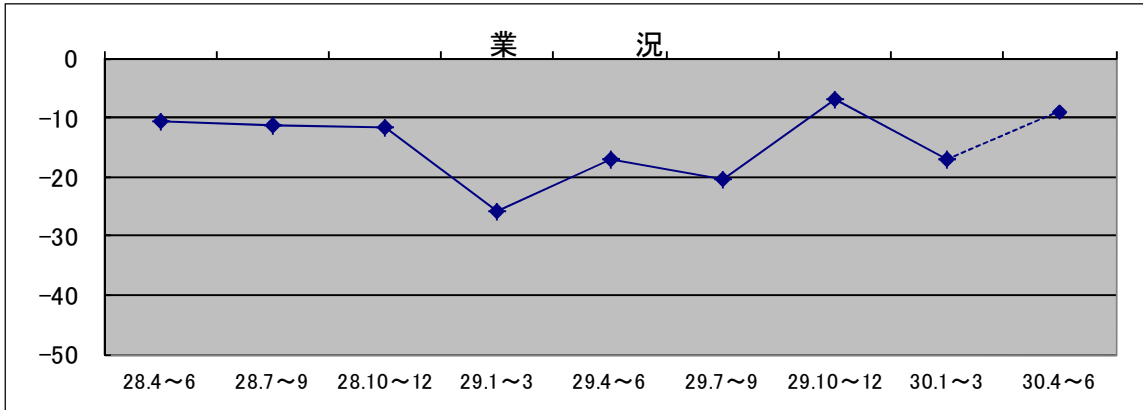
今般の北陸地方の大雪では、運休がほとんど無かった「雪に強い北陸新幹線」の姿がクローズアップされた結果となった。一方在来線は相変わらず雪による弱さが見られたが、現在工事中の北陸新幹線敦賀延伸でどのように変わるのかに期待が高まる。まだまだ先のことはあるが、大阪までの延伸による東海道新幹線の代替路線としての本来の役割が現実味を帯びてくるのは間違いない。

地区内の業況D. I. 推移

年	期間	業況D. I.	年	期間	業況D. I.
H23年	1~3月	△ 42.0	H27年	1~3月	△ 21.6
	4~6月	△ 34.3		4~6月	△ 13.3
	7~9月	△ 33.3		7~9月	△ 11.6
	10~12月	△ 31.6		10~12月	△ 10.4
H24年	1~3月	△ 39.1	H28年	1~3月	△ 23.2
	4~6月	△ 34.2		4~6月	△ 17.9
	7~9月	△ 29.6		7~9月	△ 12.1
	10~12月	△ 28.2		10~12月	△ 16.0
H25年	1~3月	△ 30.9	H29年	1~3月	△ 26.9
	4~6月	△ 20.0		4~6月	△ 19.5
	7~9月	△ 18.6		7~9月	△ 13.6
	10~12月	△ 14.4		10~12月	△ 11.1
H26年	1~3月	△ 21.9	H30年	1~3月	△ 20.0
	4~6月	△ 25.7		4~6月	
	7~9月	△ 23.4		7~9月	
	10~12月	△ 20.3		10~12月	



製造業



【概況】

スマートフォン向け電子部品・デバイスや医薬品分野が好調に推移したものの、雪による出荷遅れなどで今期（H30.1~3月）の業況D.I.は、製造業全体で△17.2（前期△7.0）と大きく悪化を示した。しかしながら雪による影響自体は一時的なものとしている。

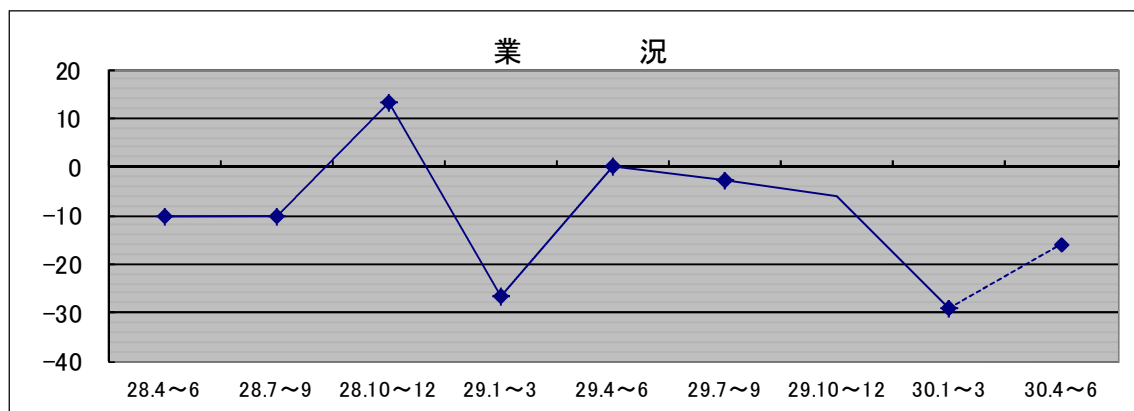
来期（H30.4~6月）の業況D.I.は△9.1と改善を予想する。中国でのスマートフォン需要が落ち着き、新型iPhoneの売上げが伸びていない関係から電子部品・デバイス分野に陰りは見られるが、建設や繊維関連の機械製造が増加している。

《業績判断D.I.の推移》

	平成28年			平成29年			平成30年	見通し	
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	4~6月	
業況	△10.8	△11.2	△11.8	△26.0	△16.9	△20.5	△7.0	△17.2	△9.1
売上	△2.5	△7.1	△2.9	△23.0	△6.5	△17.6	2.0	△17.2	△2.5
収益	△5.9	△10.7	△4.9	△29.0	△9.5	△19.0	△6.5	△18.2	△7.6
資金繰り	△10.8	△7.6	△9.8	△15.5	△10.0	△16.1	△10.4	△9.1	△7.1
人手	△11.3	△7.6	△10.3	△11.5	△11.4	△8.3	△14.9	△14.1	△13.6
設備	△7.8	△9.1	△6.9	△6.0	△6.5	△5.4	△6.0	△7.6	△8.1

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
売上の停滞・減少	16.6 %	提携先を見つける	27.4 %
輸入製品との競争の激化	16.4 %	経費を節減する	19.1 %
人件費の増加	8.9 %	販路を広げる	17.3 %

卸売業



【概 況】

大雪による物流の停滞もあり季節要因も加わり、卸売業全体の今期（H30.1～3月）業況D.I.は△29.0（前期△6.2）と大きく悪化を示した。特に青果、食料品、日用雑貨の悪化が著しく、一方、再生資源、建築資材関連が好調に推移した。

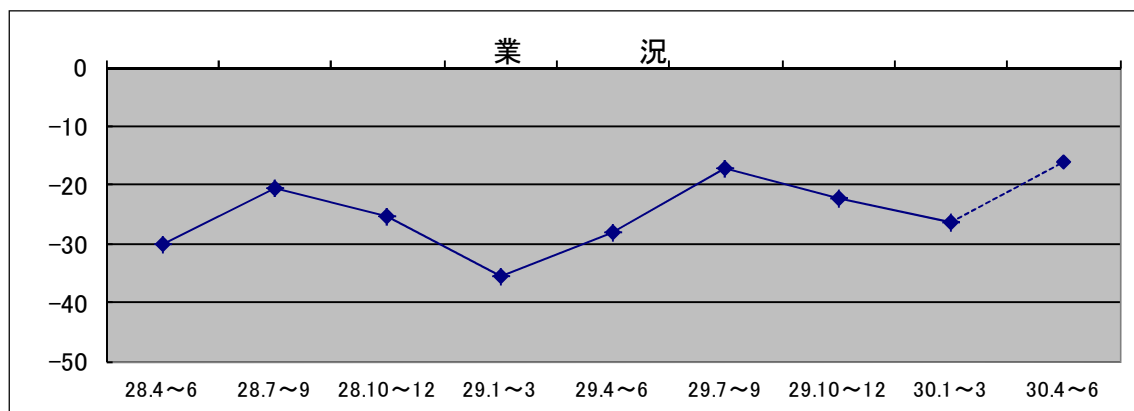
来期は食品、日用雑貨が改善に転じる一方、木材関連や建設、園芸分野が低迷すると見る。建築・住宅資材は引き続き好調を見込んでおり、したがって、来期（H30.4～6月）の卸売業全体の見通しは、△16.1と改善を予想する。

《業績判断D.I.の推移》

	平成28年			平成29年				平成30年	見通し
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月
業況	△10.3	△10.0	13.3	△26.5	0.0	△3.0	△6.2	△29.0	△16.1
売上	△3.4	△23.3	△6.7	△41.2	5.7	△3.0	△12.5	△25.8	△6.5
収益	△6.9	△23.3	△3.3	△44.1	0.0	△3.0	△9.4	△29.0	0.0
資金繰り	△10.3	△10.0	△3.3	△17.6	△11.4	6.1	△3.1	△19.4	△12.9
仕入価格	17.2	10.0	△3.3	△5.9	5.7	9.1	9.4	16.1	6.5
在庫	3.4	3.3	0.0	△17.6	△5.7	0.0	3.1	0.0	△3.2

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
売上の停滞・減少	17.3 %	提携先を見つける	30.4 %
合理化の不足	14.8 %	販路を広げる	22.8 %
同業者間の競争の激化	13.6 %	経費を節減する	18.5 %

小売業



【概 況】

例年に無い大雪で、来店客の減少が売りに響き、物流の停滞で仕入れに影響が出た。ガソリンの品薄で閉店を余儀なくされたスタンドがあるなど、幅広い業態で売りが前年割れとなった。特に車両販売、衣料品や百貨店における影響が大きかった。したがって、今期（H30.1～3月）の業況D.I.は△26.4（前期△22.3）と悪化を示した。

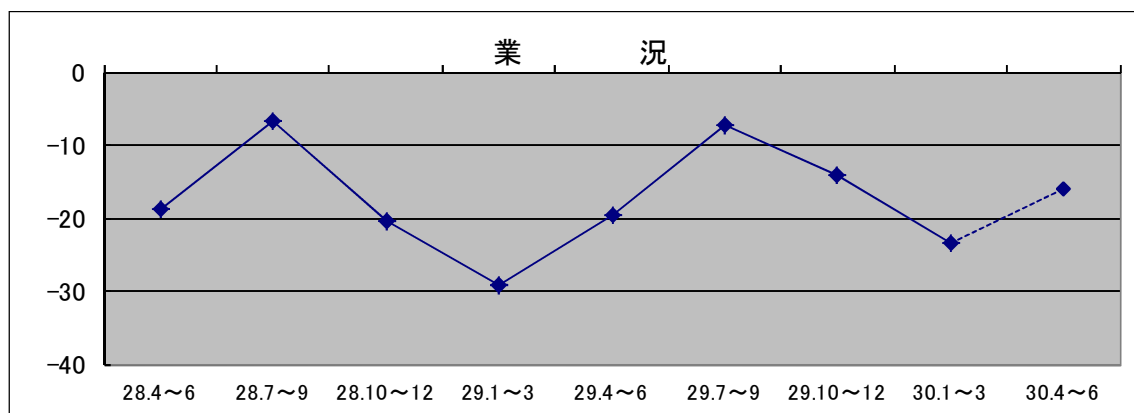
来期（H30.4～6月）業況D.I.については△16.1と改善に転じると予想する。3月以降消費動向が回復傾向にあり、入込人口の増加に伴って景況の好転に期待する。

《業績判断D.I.の推移》

	平成28年			平成29年			平成30年	見通し	
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月
業況	△30.0	△20.6	△25.2	△35.7	△28.2	△17.2	△22.3	△26.4	△16.1
売上	△21.0	△10.3	△21.8	△29.5	△16.8	△3.3	△13.6	△29.5	△8.3
収益	△24.3	△13.2	△24.8	△30.0	△17.3	△7.7	△15.0	△31.6	△11.4
資金繰り	△20.5	△16.2	△27.7	△26.1	△14.9	△14.4	△17.5	△19.2	△18.7
販売価格	1.0	△1.5	1.0	1.9	△2.5	3.8	7.3	1.0	△9.8
在庫	4.3	3.9	0.0	△7.2	△2.0	1.9	5.3	△1.6	1.0

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
地価の高騰	16.5 %	仕入先を開拓・選別する	28.7 %
売上の停滞・減少	15.8 %	品揃えを改善する	10.3 %
商圈人口の減少	14.6 %	売れ筋商品を取扱う	9.6 %

サービス業



【概 況】

大雪の影響は業態全体に及び、特に観光地への入込人口の減少や宿泊施設でのキャンセルが相次いだ。主要温泉地では1割程度のキャンセルがあったとの報道もあった。加えて飲食業や理・美容業、旅客運送業でも影響が大きく、結果、サービス業全体の今期（H30.1～3月）業況D.I.は△23.5（前期△14.2）と悪化した。

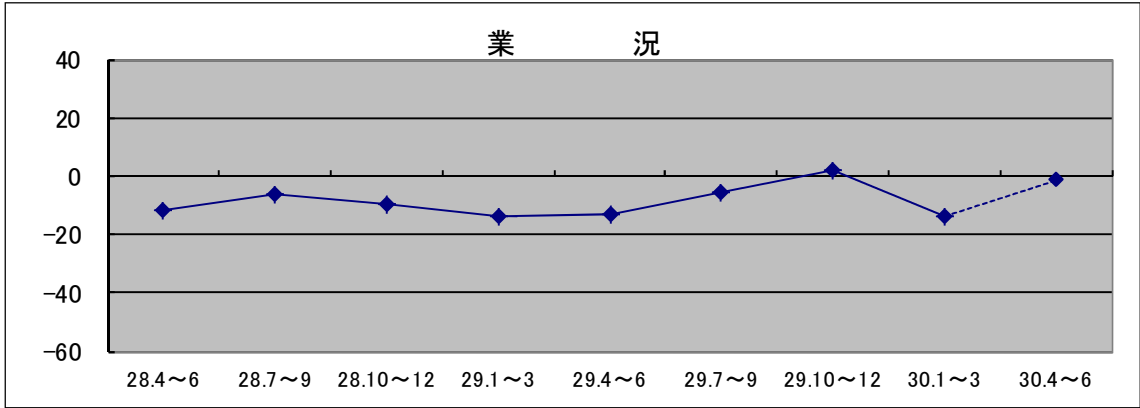
来期（H30.4～6月）のサービス業全体でのD.I.見通しは△16.0と、ゴールデンウィークを迎え観光業の回復が見こまれ、それに伴う入込人口の増加に期待し、大きく改善に転じると予想している。

《業績判断D.I.の推移》

	平成28年			平成29年			平成30年	見通し	
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月
業況	△18.8	△6.8	△20.3	△29.3	△19.5	△7.3	△14.2	△23.5	△16.0
売上	△10.7	0.0	△15.3	△29.3	△14.4	2.4	△14.2	△26.1	△13.4
収益	△13.4	△8.5	△19.5	△33.6	△17.8	△4.0	△19.2	△29.4	△16.8
資金繰り	△17.0	△16.2	△15.3	△24.1	△20.3	△16.1	△15.8	△20.2	△16.8
料金価格	△0.9	△3.4	△1.7	△6.0	△5.9	1.6	△3.3	△5.0	△4.2
設備	△8.0	△8.5	△7.6	△7.8	△9.3	△8.1	△12.5	△6.7	0.0

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
利幅の縮小	16.5 %	提携先を見つける	27.2 %
売上の停滞・減少	15.6 %	経費を節減する	18.1 %
同業者間の競争の激化	11.0 %	宣伝・広告を強化する	12.2 %

建設業



【概況】

今期（H30. 1～3月）業況D.I.は△13.8（前期2.0）と4期振りに悪化に転じた。大雪の影響もあって公共工事や一般建築工事の遅れも伴った。住宅建築では、前年同月期対比で17%以上の減少となった。人手確保のための人件費の増加も収益を圧迫している。

来期（H30. 4～6月）の業況D.I.は△1.1と大幅に改善すると予想している。

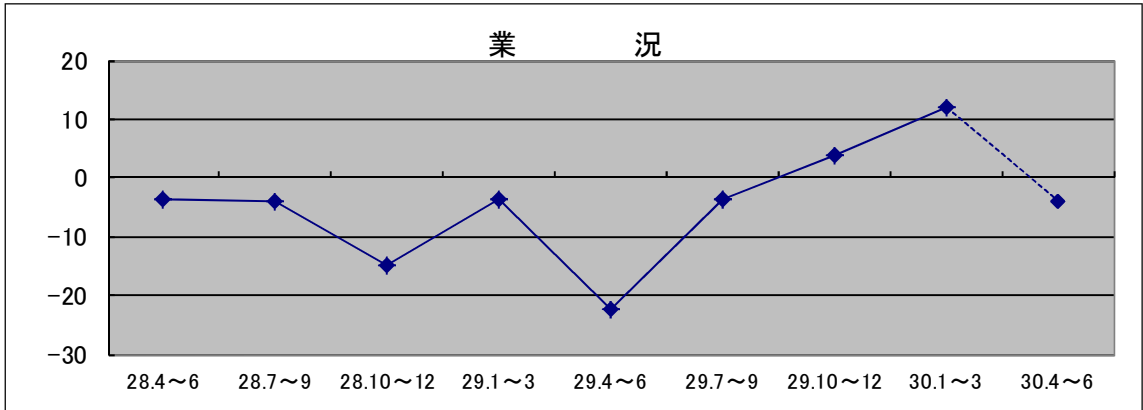
業界では20年秋から運用が予定されている建設キャリアアップシステムに異論が出ており、優秀な職員が大手に引き抜かれるのではと、人手不足の現状を踏まえて不安視する声が多い。

《業績判断D.I.の推移》

	平成28年			平成29年			平成30年	見通し	
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月
業況	△11.6	△5.9	△9.9	△14.0	△13.0	△5.8	2.0	△13.8	△1.1
売上	△3.2	2.0	△5.0	△19.0	△3.0	△2.9	△5.1	△20.2	12.8
収益	△6.3	1.0	△9.9	△18.0	△8.0	△7.8	△7.1	△21.3	6.4
資金繰り	△7.4	△5.9	△10.9	△16.0	△10.0	△10.7	△8.2	△4.3	△5.3
請負価格	△6.3	△2.9	△16.8	△10.0	△5.0	1.0	△7.1	1.1	△3.2
人手	△5.3	△8.8	△10.9	△11.0	△11.0	△7.8	△14.3	△20.2	△18.1

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
同業者間の競争の激化	15.7 %	技術力を高める	28.3 %
売上の停滞・減少	15.3 %	経費を節減する	17.9 %
人件費以外の経費の増加	11.7 %	販路を広げる	13.0 %

不動産業



【概 況】

特に大雪の影響も見られなかったことで、今期（H30. 1～3月）の業況D.I.は12.0（前期3.8）と3期連続で改善を示した。昨年来の金沢地区における不動産仲介業が好調に推移している。加えて不動産売買も活発に行われた。ただ、やや在庫不足も見られるようになってきている。

来期（H30. 4～6月）の業況D.I.は△4.0と大きく悪化を予想する。

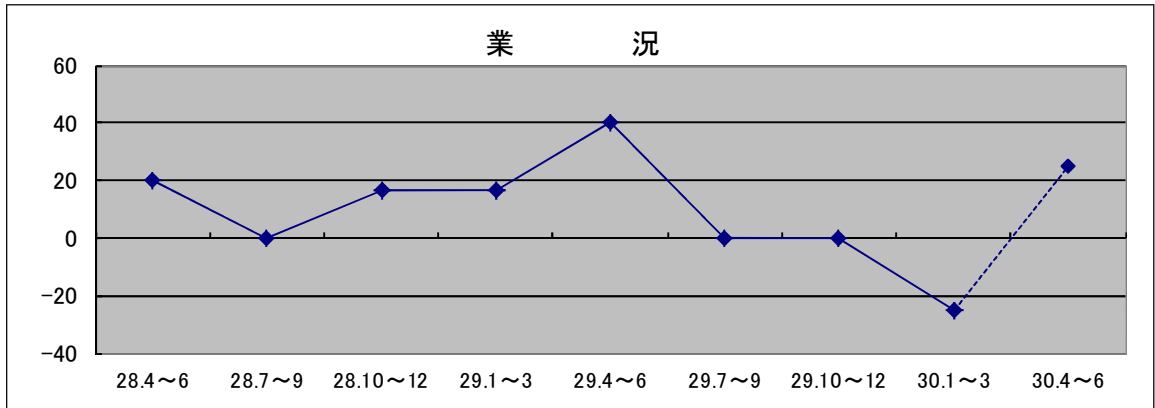
在庫不足が更に進むと見込んでいる。また経営の一番の問題点として、同業者間の競争の激化を挙げており、仲介にしても売買にしても他社に先駆けての優良物件の確保が課題としている。

《業績判断D.I.の推移》

	平成28年			平成29年			平成30年	見通し	
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月
業 況	△3.8	△4.0	△14.8	△3.6	△22.2	△3.6	3.8	12.0	△4.0
売 上	3.8	0.0	7.4	7.1	3.7	17.9	11.5	4.0	△8.0
収 益	0.0	△8.0	7.4	10.7	3.7	17.9	7.7	0.0	△16.0
資金繰り	△3.8	△8.0	△11.1	△7.1	△11.1	△7.1	△7.7	△8.0	△8.0
販売価格	11.5	16.0	7.4	△3.6	△3.7	7.1	11.5	△4.0	△8.0
在 庫	7.7	12.0	3.7	△3.6	△18.5	△7.1	7.7	△4.0	△4.0

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
同業者間の競争の激化	27.3 %	提携先を見つける	22.1 %
売上の停滞・減少	24.2 %	経費を節減する	16.2 %
大手企業との競争の激化	21.2 %	販路を広げる	14.7 %

能登地区の縫製業



【概況】

昨年の夏以来売上の減少が続き、人手不足も相俟って業況の悪化が著しい。従業員数に見合った受注の確保は出来ているものの、結果、今期（H30.1～3月）の業況D.I.は△25.0（前期0.0）と悪化を示した。

来期（H30.4～6月）は業況D.I.を25.0と大きく改善すると予想しているが、特に目立った好材料も見られないのが実情である。

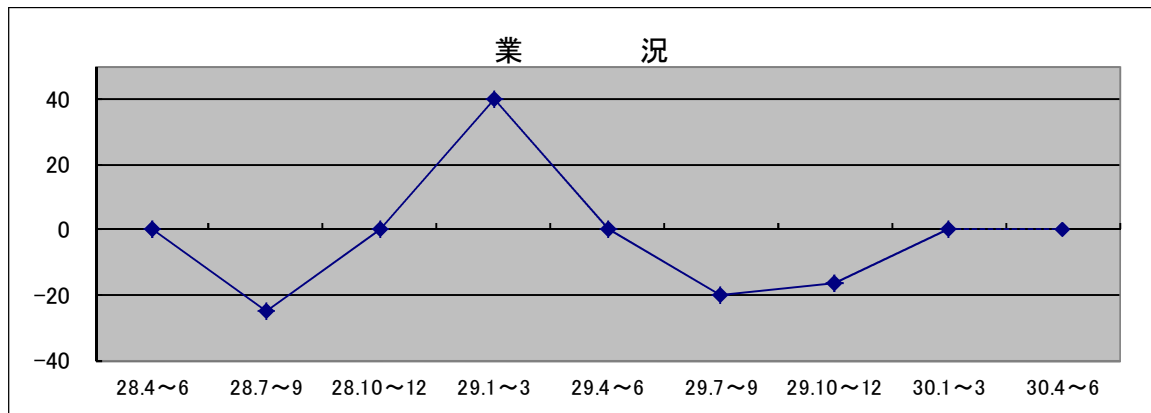
地区内においては年々調査対象企業が減少し、地場産業としての位置付けも難しくなっており、数社の景況感が地区内業界全体の景況判断に影響を及ぼすようになってきている。

《業績判断D.I.の推移》

	平成28年			平成29年			平成30年	見通し	
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月
業況	20.0	0.0	16.7	16.7	40.0	0.0	0.0	△25.0	25.0
売上	0.0	△14.3	16.7	16.7	0.0	△40.0	△33.3	△25.0	25.0
収益	0.0	△14.3	16.7	16.7	△20.0	△20.0	△33.3	△25.0	25.0
資金繰り	△40.0	△14.3	0.0	0.0	0.0	△20.0	0.0	0.0	0.0
人手	△20.0	△42.9	△33.3	△33.3	△40.0	△40.0	△66.7	△50.0	△50.0
設備	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
輸入製品との競争の激化	21.4 %	経費を節減する	25.0 %
売上の停滞・減少	14.3 %	新製品・技術を開発する	25.0 %
工場・機械の狭小・老朽化	14.3 %	不採算分門を整理・縮小する	25.0 %

能登地区の電子部品・半導体製造業



【概況】

製造業全体では、大雪で一部に出荷遅れが見られたが、影響も一時的なものであった。電子部品・半導体製造業では引き続きスマートフォン向けが好調に推移し、結果、今期（H30.1～3月）業況D.I.については、0.0（前期△16.7）と改善を示した。

来期（H30.4～6月）の業況D.I.は0.0と横這いを予想する。iPhoneの売り上げが思いのほか伸びていないことや、中国でスマートフォン需要に陰りが見られることなどから、関連部品製造も落ち着いた動きになると判断する企業が多い。

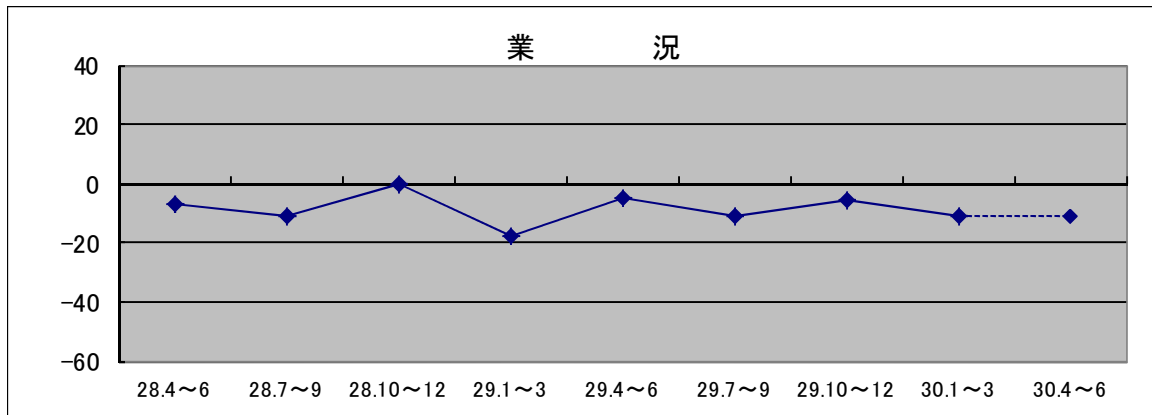
なお、当地区においては企業の減少に伴い、この業種での人手は確保されている。

《業績判断D.I.の推移》

	平成28年			平成29年			平成30年	見通し	
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月
業況	0.0	△25.0	0.0	40.0	0.0	△20.0	△16.7	0.0	0.0
売上	20.0	0.0	50.0	0.0	28.6	0.0	0.0	0.0	0.0
収益	△20.0	25.0	50.0	0.0	0.0	△40.0	0.0	△20.0	△20.0
資金繰り	△20.0	25.0	△16.7	0.0	14.3	20.0	0.0	20.0	20.0
人手	△20.0	50.0	△16.7	0.0	14.3	0.0	△16.7	20.0	20.0
設備	△20.0	△25.0	16.7	0.0	0.0	△20.0	△16.7	△20.0	0.0

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
利幅の縮小	33.3 %	提携先を見つける	41.7 %
人件費の増加	33.3 %	経費を節減する	25.0 %
売上の停滞・減少	11.1 %	販路を広げる	16.7 %

能登地区の漆器業



【概 況】

冬季を迎え、加えて例年に無い大雪の影響からの入込客の減少も伴い、売上、収益ともに悪化に転じた。結果、今期（H30.1～3月）の業況D.I.は△11.1（前期△5.6）と悪化を示した。

来期（H30.4～6月）は入り込み人口の増加が見込まれるものの、収益の大幅な改善に繋がるまでの売上げの伸びは期待できないと見ており、業況D.I.は△11.1と横這いを予想している。

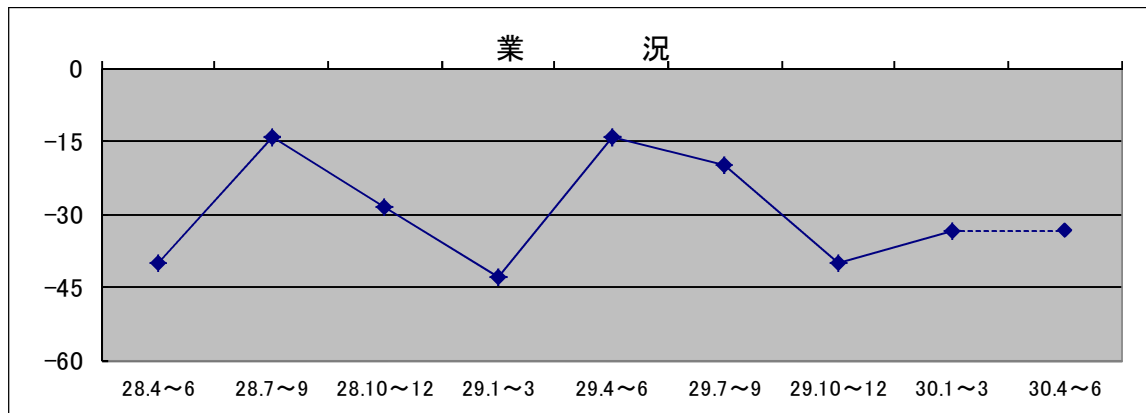
イベントの開催や異業種とのコラボ商品開発など、積極的な取組が徐々に注目を浴びてきており、業界全体の活性化に期待が大きい。

《業績判断D.I.の推移》

	平成28年			平成29年			平成30年	見通し	
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月
業況	△6.7	△11.1	0.0	△17.6	△5.0	△11.1	△5.6	△11.1	△11.1
売上	6.7	△11.1	△7.1	11.8	5.0	11.1	16.7	5.6	0.0
収益	13.3	△11.1	△7.1	5.9	10.0	11.1	5.6	△5.6	0.0
資金繰り	△13.3	△11.1	△21.4	△5.9	△5.0	△5.6	△5.6	0.0	0.0
人手	△33.3	0.0	△14.3	0.0	△10.0	△11.1	△11.1	△11.1	△11.1
設備	△20.0	△16.7	△14.3	△5.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
地場産業の衰退	16.9 %	提携先を見つける	28.8 %
売上の停滞・減少	13.8 %	販路を広げる	22.0 %
同業者間の競争の激化	12.3 %	経費を節減する	16.9 %

能登地区の木材業



【概 況】

大雪による影響が少なく、住宅建設の緩やかな回復も伴い今期（H30. 1～3月）の業況D.I.は△33.3（前期△40.0）と改善を示した。

年明けには外材の入荷が大きく伸びたものの、地元丸太の売り上げは減少しており、売り上げ全体では前年同月比を大きく下回った。

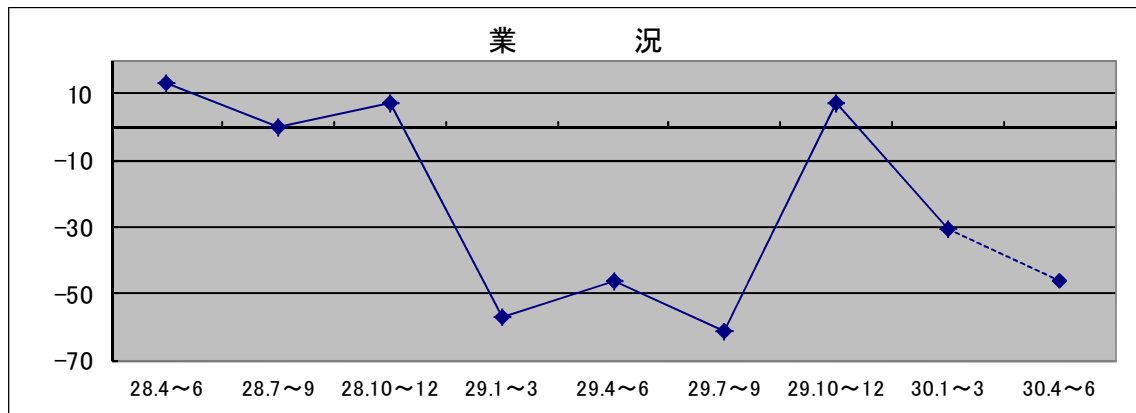
来期（H30. 4～6月）については、業況D.I.は△33.3と横ばいを予想するも、今後は人手確保とそれに伴う人件費の増加が一番の課題と見る企業が多い。

《業績判断D.I.の推移》

	平成28年			平成29年				平成30年	見通し
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月
業 況	△40.0	△14.3	△28.6	△42.9	△14.3	△20.0	△40.0	△33.3	△33.3
売 上	△40.0	△14.3	△14.3	△28.6	△28.6	△20.0	△40.0	△16.7	0.0
収 益	△40.0	△28.6	△14.3	△14.3	△14.3	△20.0	△40.0	△33.3	0.0
資金繰り	△20.0	△14.3	△28.6	0.0	△14.3	△20.0	△40.0	△16.7	0.0
人 手	0.0	0.0	0.0	△42.9	△42.9	0.0	0.0	△16.7	△16.7
設 備	△20.0	△14.3	△14.3	△14.3	0.0	△20.0	△20.0	△16.7	0.0

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
輸入製品との競争の激化	25.0 %	販路を広げる	11.1 %
売上の停滞・減少	18.8 %	経費を節減する	11.1 %
人手不足	12.5 %	不採算部門を整理・縮小する	11.1 %

能登地区の建具業



【概 況】

昨年後半には明るい状況も見られたが、この冬の大雪による物流網の寸断により製品の出荷が出来なかったことに加え、建築の遅れも重なり、売上、収益が悪化した結果、今期（H30.1～3月）業況D.I.は△30.8（前期7.1）と大幅な悪化を示した。

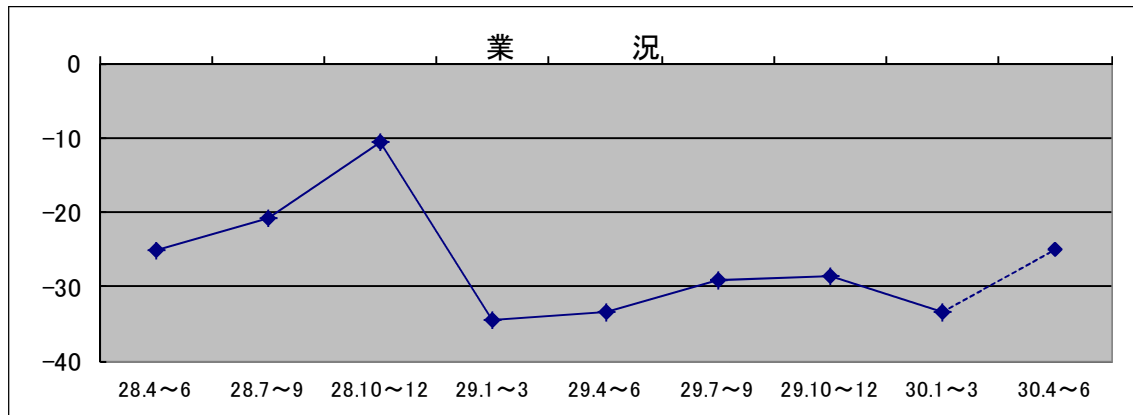
来期（H30.4～6月）の業況D.I.は△46.2と更なる悪化を予想している。地区内では昨年2社の廃業があったが、一方で、積極的にイベントに参加するなど、地場産業の活性化を目指す企業も少なくない。

《業績判断D.I.の推移》

	平成28年			平成29年				平成30年	見通し
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月
業況	13.3	0.0	7.1	△57.1	△46.2	△61.5	7.1	△30.8	△46.2
売上	20.0	6.7	△7.1	△50.0	△23.1	△38.5	0.0	△38.5	△30.8
収益	6.7	0.0	△7.1	△71.4	△38.5	△61.5	△21.4	△46.2	△38.5
資金繰り	△6.7	△6.7	△14.3	△50.0	△38.5	△53.8	△21.4	△15.4	△15.4
人手	0.0	0.0	0.0	△7.1	7.7	0.0	△14.3	△15.4	△15.4
設備	0.0	0.0	0.0	0.0	△7.7	57.7	△7.1	△15.4	0.0

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
輸入製品との競争の激化	21.4 %	提携先を見つける	32.4 %
売上の停滞・減少	19.0 %	販路を広げる	23.5 %
地場産業の衰退	14.3 %	経費を節減する	20.6 %

能登地区の織布業



【概況】

今期（H30. 1～3月）業況D.I.については△33.3（前期△28.6）と悪化を示した。来期（H30. 4～6月）のD.I.については、△25.0と改善を予想している。

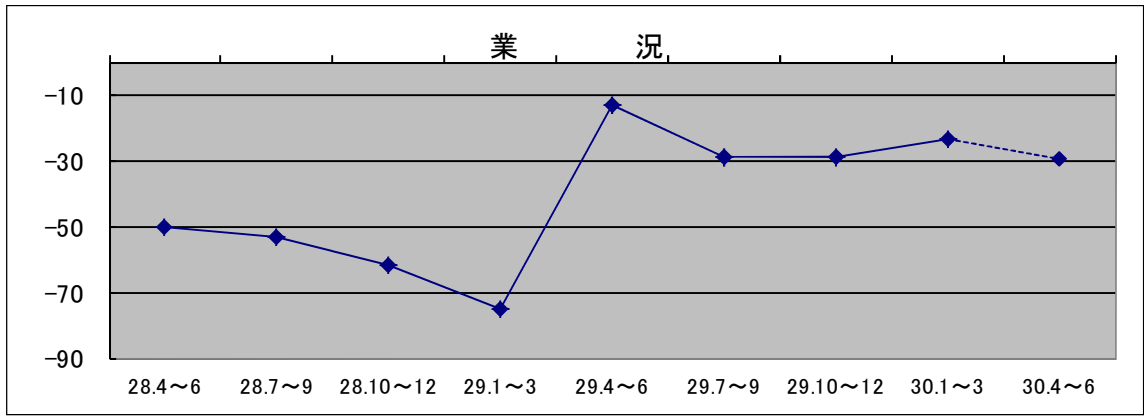
業界では、中国で環境問題などから織機台数を減少させている影響で、受注が急増している企業も見られる。当地区では小規模事業者の廃業による織機台数の減少が進んでおり、生産能力を上回る受注に対応が厳しくなっている実情もあって、今後設備投資に向けた動きも出てくるのではないかとと思われるが、一方で受注が減少すれば無駄な投資になるとの声も聞かれる。

《業績判断D.I.の推移》

	平成28年			平成29年				平成30年	見通し
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月
業況	△25.0	△20.8	△10.7	△34.5	△33.3	△29.0	△28.6	△33.3	△25.0
売上	△12.5	△16.7	△3.6	△27.6	△22.2	△29.0	△25.0	△33.3	△20.8
収益	△20.8	△25.0	△7.1	△37.9	△18.5	△22.6	△25.0	△29.2	△20.8
資金繰り	△8.3	△8.3	△7.1	△10.3	△3.7	△12.9	△14.3	△4.2	4.2
人手	△12.5	△16.7	△3.6	△17.2	△18.5	△6.5	△10.7	△12.5	△8.3
設備	0.0	4.2	0.0	3.4	△7.4	△3.2	△3.6	0.0	0.0

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
売上の停滞・減少	16.4 %	提携先を見つける	33.9 %
輸入製品との競争の激化	16.4 %	経費を節減する	24.2 %
人手不足	8.2 %	販路を広げる	17.7 %

能登地区の繊維・雑品業



【概況】

今期（H30. 1～3月）業況D.I.は△23.5（前期△28.6）と改善を示しているも、大雪の影響から原糸を供給できず、出荷が約2週間制限されたことによる納品遅れもあって資金繰りが厳しい企業も見られた。

来期（H30. 4～6月）の業況D.I.は△29.4と悪化を予想している。

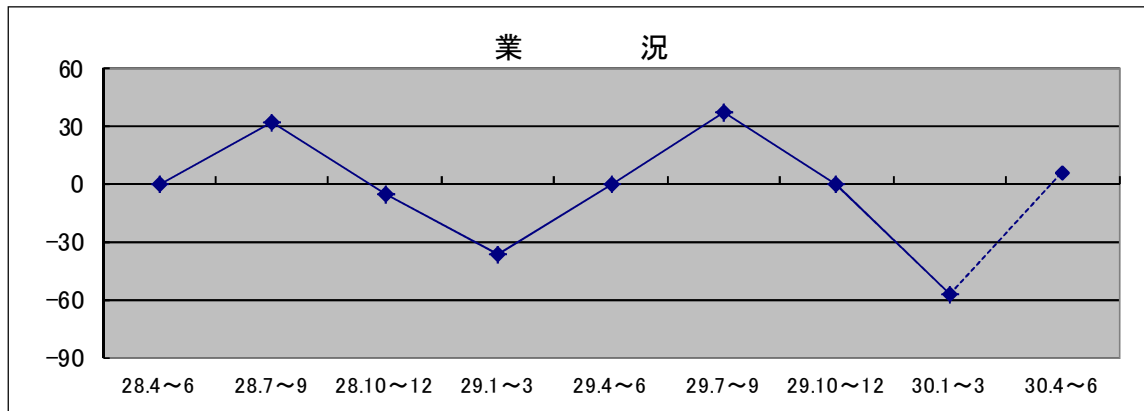
当地区の主な出荷先である関西の大手発注先が、生産拠点を海外にシフトした関係から大口の受注が打ち切られ、事業継続に危機感を募らせている事業所が数社見られる。

《業績判断D.I.の推移》

	平成28年			平成29年				平成30年	見通し
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月
業況	△50.0	△53.3	△61.5	△75.0	△13.3	△28.6	△28.6	△23.5	△29.4
売上	△22.2	△53.3	7.7	△83.3	△13.3	△21.4	△21.4	△17.6	△35.3
収益	△16.7	△53.3	7.7	△83.3	△13.3	△28.6	△21.4	△17.6	△29.4
資金繰り	0.0	△26.7	△15.4	△33.3	△6.7	△21.4	△21.4	△29.4	△29.4
人手	△5.6	0.0	△7.7	0.0	0.0	7.1	△28.6	△23.5	△17.6
設備	0.0	0.0	△15.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
輸入製品との競争の激化	23.2 %	提携先を見つける	19.5 %
売上の停滞・減少	19.6 %	経費を節減する	19.5 %
人件費の増加	10.7 %	販路を広げる	14.6 %

能登地区の観光業



【概 況】

例年に無い大雪の影響から、交通機関の乱れや道路の寸断などで主要観光地への入込客が減少し、宿泊施設にはキャンセルが相次いだ。観光のオフシーズンとも相まって今期（H30.1～3月）の業況D.I.は△57.9（前期0.0）と大きく悪化した。

来期（H30.4～6月）業況D.I.は5.3と、春の観光シーズンを迎えゴールデンウィークが控えていることもあり、大きく改善に転じると予想する。しかしながら、資金繰りが景況感や収益の改善とリンクしないと見る経営者が多いことが窺える。

《業績判断D.I.の推移》

	平成28年			平成29年			平成30年	見通し	
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月
業 況	0.0	31.2	△5.6	△36.8	0.0	36.4	0.0	△57.9	5.3
売 上	17.6	68.8	△16.7	△52.6	5.0	68.2	10.0	△47.4	31.6
収 益	11.8	50.0	△16.7	△52.6	0.0	54.5	△10.0	△47.4	26.3
資金繰り	0.0	6.2	△11.1	△5.3	△20.0	△4.5	△5.0	△42.1	△31.6
料金価格	5.9	0.0	△5.6	△21.1	0.0	△9.1	5.0	△5.3	0.0
設 備	△17.6	△25.0	△22.2	△5.3	△10.0	△9.1	△20.0	△10.5	0.0

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
代金回収の悪化	15.9 %	提携先を見つける	30.1 %
利幅の縮小	14.3 %	宣伝・広告を強化する	24.2 %
売上の停滞・減少	12.7 %	経費を節減する	12.2 %

主要経済指標

◆ 労働

(時間)

	有効求人倍率 (季節調整値)	実質労働時間	
			うち所定外
28年 4月	1.60	156.0	10.9
28年 5月	1.64	143.4	10.3
28年 6月	1.67	155.4	10.5
28年 7月	1.65	154.4	11.2
28年 8月	1.60	148.9	10.7
28年 9月	1.62	151.2	11.2
28年 10月	1.62	149.2	11.4
28年 11月	1.67	153.0	11.8
28年 12月	1.68	152.1	12.0
29年 1月	1.76	141.6	11.6
29年 2月	1.80	151.0	11.8
29年 3月	1.82	151.9	12.2
29年 4月	1.86	156.3	12.2
29年 5月	1.90	146.8	11.6
29年 6月	1.92	157.9	11.7
29年 7月	1.88	154.1	11.7
29年 8月	1.86	147.5	11.2
29年 9月	1.84	154.0	11.9
29年 10月	1.84	152.2	11.9
29年 11月	1.85	153.6	11.9
29年 12月	1.80	153.1	12.1
30年 1月	1.97		

資料: 石川県企画開発部統計課

◆ 消費者物価指数

※平成28年より2015年(平成27年)を100としています。

	総合	
		前年同月比
28年 4月	99.7	-0.4
28年 5月	99.7	-0.6
28年 6月	99.7	-0.4
28年 7月	99.6	-0.5
28年 8月	99.6	-0.6
28年 9月	99.6	-0.6
28年 10月	100.1	0.0
28年 11月	100.3	0.4
28年 12月	100.1	0.3
29年 1月	99.9	0.6
29年 2月	100.0	0.8
29年 3月	100.0	0.6
29年 4月	100.6	0.9
29年 5月	101.0	1.3
29年 6月	100.8	1.1
29年 7月	100.5	0.9
29年 8月	100.8	1.2
29年 9月	100.9	1.2
29年 10月	100.9	0.8
29年 11月	101.5	1.2
29年 12月	101.8	1.7
30年 1月	102.0	2.1
30年 2月	102.0	2.0

資料: 石川県企画開発部統計課

◆ 信用保証

(百万円)

	保証承諾		保証債務	
	件数	金額	件数	金額
28年 4月	282	2,521	27,448	207,068
28年 5月	250	2,640	27,079	202,756
28年 6月	256	2,501	26,598	198,544
28年 7月	230	2,527	25,996	193,256
28年 8月	202	2,244	25,491	188,820
28年 9月	252	3,009	24,997	184,133
28年 10月	205	1,906	24,515	179,829
28年 11月	186	1,972	24,000	175,451
28年 12月	204	2,238	23,380	171,671
29年 1月	170	2,097	23,058	168,046
29年 2月	208	2,411	22,663	164,047
29年 3月	276	2,966	21,981	160,358
29年 4月	191	1,438	21,633	157,545
29年 5月	230	1,703	21,337	154,062
29年 6月	350	2,465	21,076	150,616
29年 7月	244	1,866	20,775	147,022
29年 8月	247	2,231	20,421	143,695
29年 9月	311	2,694	20,018	140,909
29年 10月	181	1,502	19,727	138,194
29年 11月	176	1,630	19,353	135,146
29年 12月	200	1,577	18,969	132,033
30年 1月	126	1,521	18,706	129,159
30年 2月	162	1,288	18,345	126,816

資料: 石川県信用保証協会「保証月報」

◆ 企業倒産件数

(百万円)

	企業倒産件数	
	件数	金額
28年 3月	10	6,265
28年 4月	14	1,386
28年 5月	7	295
28年 6月	7	191
28年 7月	4	123
28年 8月	6	1,394
28年 9月	8	163
28年 10月	3	94
28年 11月	6	2,024
28年 12月	5	369
29年 1月	6	134
29年 2月	9	3,834
29年 3月	12	1,414
29年 4月	6	271
29年 5月	6	1,063
29年 6月	4	204
29年 7月	8	179
29年 8月	4	1,862
29年 9月	8	1,296
29年 10月	7	363
29年 11月	4	287
29年 12月	3	64
30年 1月	5	137
30年 2月	8	1,724

資料: (株)東京商工リサーチ

主要経済指標

◆ 建築着工

(千㎡、百万円)

	建築着工総数		うち住宅着工	
	床面積	工事予定額	戸数(戸)	床面積
28年 1月	142	26,145	435	40
28年 2月	97	19,478	403	47
28年 3月	99	17,956	521	54
28年 4月	127	28,392	733	72
28年 5月	92	18,391	461	50
28年 6月	139	26,797	863	82
28年 7月	116	24,556	838	77
28年 8月	117	21,307	579	57
28年 9月	106	19,914	702	63
28年 10月	108	19,294	677	63
28年 11月	113	22,517	788	69
28年 12月	78	13,641	524	52
29年 1月	116	21,200	625	58
29年 2月	77	16,435	464	46
29年 3月	87	16,538	613	56
29年 4月	100	18,079	591	62
29年 5月	109	20,698	738	70
29年 6月	119	22,664	698	68
29年 7月	100	18,552	650	64
29年 8月	87	16,788	687	65
29年 9月	117	22,877	776	68
29年 10月	115	22,358	787	71
29年 11月	97	19,637	765	70

資料:国土交通省(石川県内)

◆ 公共工事請負金額

(件、百万円)

	件数	請負金額
27年 12月	315	7,244
28年 1月	225	6,449
28年 2月	182	3,119
28年 3月	235	12,468
28年 4月	338	34,735
28年 5月	275	15,943
28年 6月	513	19,460
28年 7月	508	12,376
28年 8月	500	13,461
28年 9月	499	10,879
28年 10月	412	11,321
28年 11月	335	5,985
28年 12月	285	6,018
29年 1月	302	5,792
29年 2月	308	8,997
29年 3月	261	13,715
29年 4月	180	29,500
29年 5月	305	27,848
29年 6月	460	11,685
29年 7月	532	13,767
29年 8月	467	9,415
29年 9月	791	28,897
29年 10月	563	12,909
29年 11月	484	9,990

資料:東日本建設業保証(株)(石川県内)

◆ 新車登録台数

(台)

	普通自動車	軽自動車
28年 3月	5,620	3,009
28年 4月	2,269	1,218
28年 5月	2,485	1,131
28年 6月	3,131	1,498
28年 7月	3,035	1,357
28年 8月	2,373	1,186
28年 9月	3,367	1,679
28年 10月	2,841	1,332
28年 11月	2,984	1,476
28年 12月	2,632	1,288
29年 1月	2,584	1,337
29年 2月	3,601	1,832
29年 3月	6,245	2,973
29年 4月	2,538	1,367
29年 5月	2,594	1,350
29年 6月	3,534	1,129
29年 7月	3,134	1,553
29年 8月	2,489	1,194
29年 9月	3,264	1,764
29年 10月	2,444	1,361
29年 11月	2,423	1,512
29年 12月	2,582	1,384
30年 1月	2,395	1,524
30年 2月	3,223	1,759

資料:石川県自動車販売店協会

◆ 温泉地宿泊数

(人)

	和倉温泉	輪島温泉
28年 4月	61,659	14,100
28年 5月	76,506	20,900
28年 6月	71,019	14,300
28年 7月	67,715	13,100
28年 8月	97,797	22,600
28年 9月	71,912	18,200
28年 10月	85,959	21,000
28年 11月	85,742	19,900
28年 12月	73,422	10,900
29年 1月	54,615	7,400
29年 2月	57,478	7,500
29年 3月	75,460	12,000
29年 4月	55,438	10,800
29年 5月	66,457	16,200
29年 6月	63,971	11,500
29年 7月	62,248	14,000
29年 8月	93,928	20,800
29年 9月	65,231	15,500
29年 10月	78,696	16,700
29年 11月	84,816	16,300
29年 12月	69,313	6,900
30年 1月	58,721	7,000
30年 2月	56,352	7,600

資料:北陸観光協会、和倉温泉観光協会
輪島市観光協会

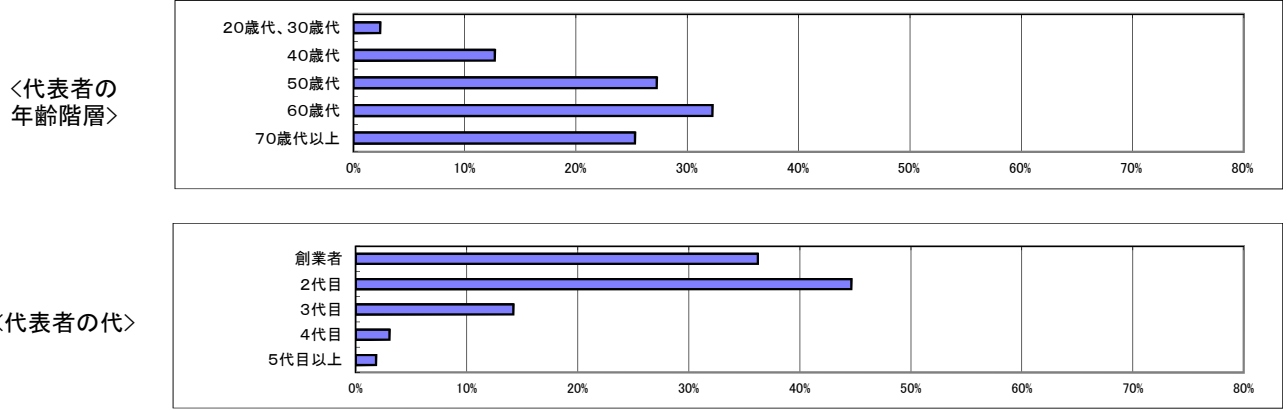
◆ 織物生産高

(千㎡)

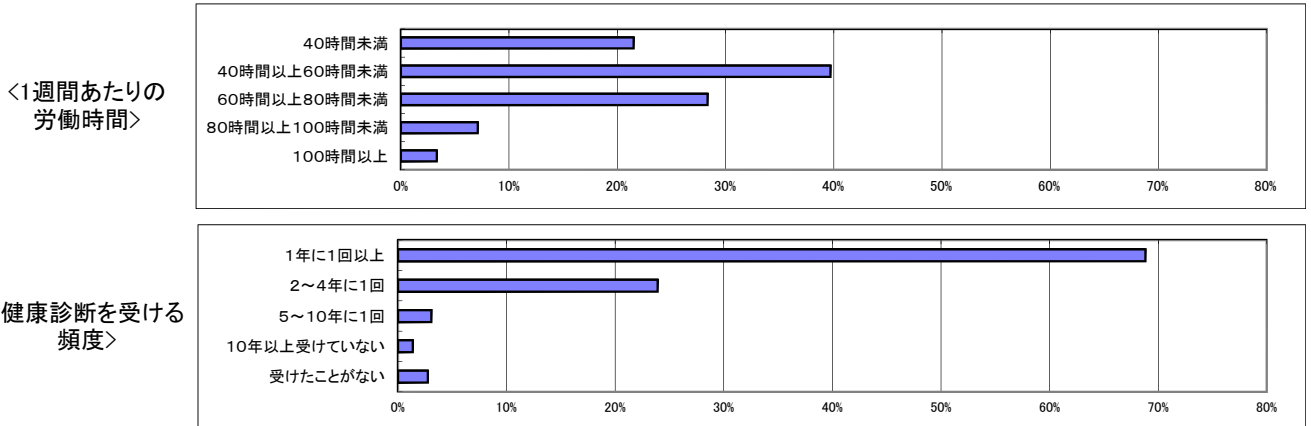
	合計
28年 4月	23,956
28年 5月	22,187
28年 6月	23,997
28年 7月	23,584
28年 8月	20,160
28年 9月	23,508
28年 10月	23,401
28年 11月	24,335
28年 12月	22,089
29年 1月	20,985
29年 2月	21,315
29年 3月	24,049
29年 4月	22,407
29年 5月	22,118
29年 6月	23,820
29年 7月	22,811
29年 8月	21,081
29年 9月	23,521
29年 10月	23,154
29年 11月	23,598
29年 12月	21,884
30年 1月	20,715

資料:石川県企画開発

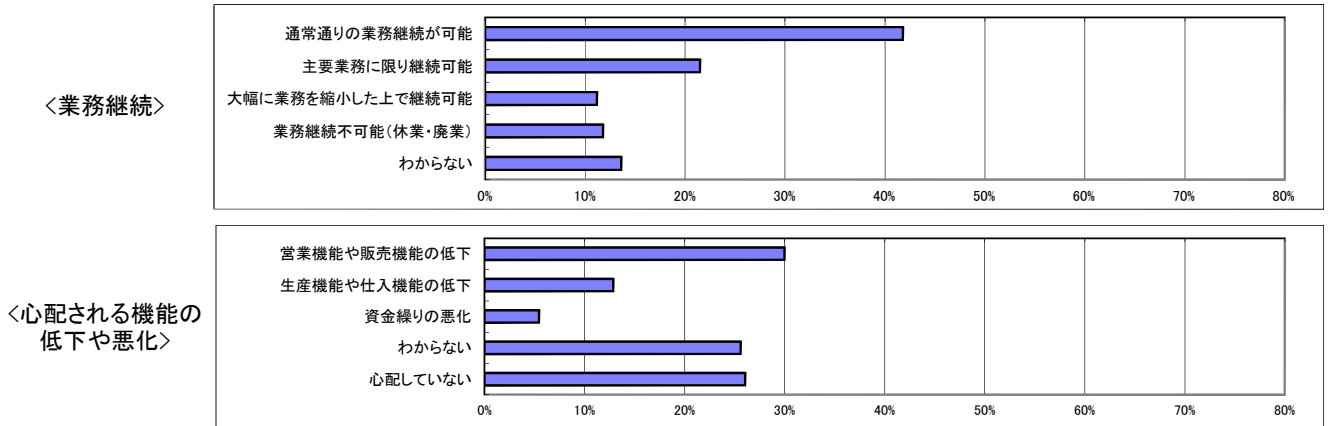
問1. 貴社の代表者の年齢階層はいずれに属しますか。また、現在の代表者は何代目ですか。



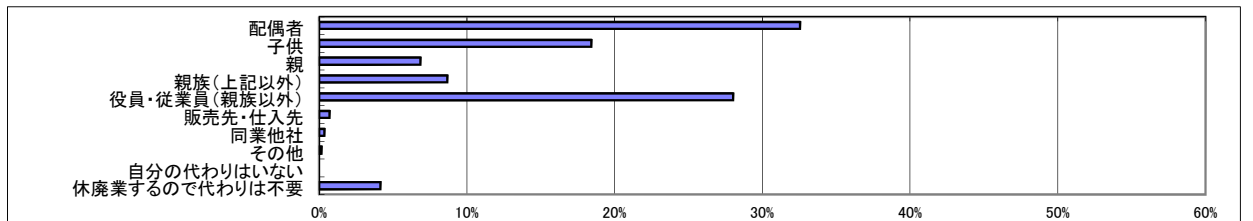
問2. 代表者の先月の労働時間は1週間あたりにするとどの程度ですか。また、健康診断をどの程度の頻度で受けていますか。



問3. 代表者が1ヶ月の休養を余儀なくされた時、どの程度の事業継続が可能ですか。また、特に心配される機能の低下や悪化は何ですか。



問4. 代表者が1ヶ月の休養を余儀なくされた時、休養中の代表者の事業を代行できる人がいますか。



問5. 代表者のストレス解消法は何ですか。

